

全組合員が立ち上がろう



闘春 目標を持ち実践しよう!



No. 2769
2020年1月1日
発行責任者 小檜山広幸
編集責任者 鈴木久幸

仙台地方本部
小檜山執行委員長



あけましておめでとうございませう。組合員とご家族の皆様におかれましては、正月の楽しいひと時をお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、この度の台風19号による洪水で被災された組合員におかれましては、心よりお見舞いを申し上げます。

この数年、政府の見解や報道では、「50年に一度あるかどうか」などの発表がされていいますが、こうした被害が毎年のように全国各地で頻発する度に、世界中が経済最優先の競争に明け暮れ、原発の安全対策、山林保全や治水という大事な事を怠ってきたその「つげ」を勤労国民や社会的弱者の犠牲で払わされているという思いを禁じ得ません。その上で、公共交通機関であるJRの労使としては、自然の猛威に備えるべく、利用者の安全はもとより危険な災害現場への社員・パートナ―会社社員に対する出勤命令及び協力要請や、通勤時において社員及びパートナ―会社社員の命や財産

が失われることがないよう「ルールの策定」に向けた労使の協力が不可欠です。さて、12月9日に閉会した第200回臨時国会は、「桜を見る会」疑惑が急浮上、終盤にかけて国会は揺れ続けました。これは総理大臣が公選法違反、政治資金規正法違反の疑いも然ることながら、問題の真相を示すはずの公文書が廃棄され、疑惑の出来事について誰も追及できないという状況が官邸主導で創り出されたことにあります。

私たちは、国内においては国民・国会をあげむいて国政を私物化し、外交においては世界とアジアの緊張緩和になおも背を向けている安倍政権を、これ以上許容できるものではありません。安倍政権の国民不在の暴走政治を許さず、平和と民主主義、国民の生活を守るために、共同・共闘の闘いを一層強化していかねければなりません。

東日本大震災から間もなく9年を迎えようとしています。今でもたくさんの方々が、原発さえなければという思いを抱きながらも旧避難区域では「復興」に向けた努力が続けられています。しかし、故郷への帰還を待ち続けながらも、その思いが叶わず「無念」のうちに亡くなられた方も多く、原発事故関連死は2000人を超え今尚増え続けています。

昨年、「国労フクシマ視

察学習交流集会」が第7回目を数えるにあたり、日本中が「令和」や「五輪」に浮かれる報道が席巻する中でも、メディアが取り上げない事実を私たち国労が伝えるという、この集会の原点に立ち返りながら常磐線の夜ノ森駅やJヴィレッジ駅など、帰還困難区域の指定解除が予定される沿線を視察してきました。

これまでの国労フクシマ交流では、歴代の高校生国連平和大使が、「原発、放射能について様々な考えや思いがある」という事を前提にしつつも、犠牲のもとに成り立つ豊かさについての疑念や命を脅かす様な便利さへの批判など、若者の主張に全国から参加した組合員が傾聴してきました。

こうした主張は、政府や企業に付度しない若者にしか出来ないものです。環境保護活動家のグレッタ・トゥーベリさんの演説と重ねて考えさせられるものであり、この交流を世界平和や地球環境に真剣に取り組みむ若者が自由に主張出来る場となるべく、持続可能な取り組みに発展して行かなければならないと思います。

さて、JR職場における喫緊の課題の一つである再雇用制度について、提示時期の遅れや不本意な就業先提示などの改善は、「真の働き方改革」の実効性を高める上で最優先にしなければならぬ問題であり、引き続き交渉の窓口を通じての改善及び解消を図って行きます。

を取り付ける話し合いなどを通じて、グループ会社や国労との協約協定締結の交渉テーブルに就くよう働きかけをして行きます。

そして、20春闘では各地区集会で意思統一してきた取り組みを実践し、前段の国労仙台総行動に結集した力を国労東北総決起集会に繋いで行く中から、会社の垣根を超えて職場改善要求獲得の気運を高めて行きます。

今年の干支は子年ですが、『漢書』律曆志によると「子」は「孳」（ふえる）を意味し、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表しているそうです。新しい年もみんなが知恵を出し合いながら組織強化拡大を最優先に取り組み、労働条件改善のために団結していきましょう。

結び、寒さ厳しい時期に入りますが、組合員とご家族の皆さんにおかれましては健康に留意され、今年一年が実り多い年になりますようお祈り申し上げます。地方本部を代表しての年頭のご挨拶といたします。

宮城県支部
千葉執行委員長



挨拶申し上げます。昨年の支部大会において宮城県支部の執行委員長に選出されました、仙石線駅連分会の千葉祐悦です。私達は、加速する合理化施策に対し数々の行動を起こしてきました。駅の委託化・無人化については、地域住民・利用者へ聞き取り調査、チラシ配布行動、東北運輸局へ相談に赴き声を集めてきました。また、分会集会上で足を運び一人でも多くの皆さんの話を聞いて「志を一つに」労働組合としての運動を波及して行きたいと考えています。そして、若い組合員と関わり、国労の次の後継者を育てていきたいとも思っています。

福島県支部
木藤執行委員長



あけましておめでとうございませう。昨年11月9日に開催されました第60回定期支部大会におきまして執行委員長に就任いたしました。大会では、一年間の闘いの

総括とJRの安全・安定輸送の確立、JR及びグループ会社を含む非正規労働者の正社員化と処遇改善、合理化反対、労働条件改善、組織強化拡大、反戦・平和、原発再稼働反対、20春闘勝利など向こう一年間の闘う方針と決意を固めました。

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から8年10カ月が経過しようとしています。事故の収束作業は難航を極め、廃炉に向けて最も難関といわれる溶解燃料（デブリ）の取り出し作業は、依然として高い放射線量の壁に阻まれています。いまだにデブリの全容を把握するには至っておらず、取り出し技術の確立の目途さえも立っていません。今年42,705人の県民が避難生活を強いられています。震災関連死も2,000人を超えています。

その原因は、故郷を追い出された喪失感や長期にわたる避難生活からくる精神的苦痛やストレス、避難先での病院通いの毎日や将来の見通しが立たない生活設計への不安などに起因するものであることは想像に難しくありません。

昨年9月19日東京地裁は東京電力の旧経営陣3名に対する業務上過失致死傷罪が問われた刑事裁判で、3名を無罪とする判決を出しました。「長期評価」津波の予見可能性の根拠とされ、これまでの民事裁判において定着してきた信頼性を根底から否定するものであり、不当な判決だと言わざるを得ません。

さて、昨年東日本全域に猛威を振った台風19号の影響で、福島県内でも阿武隈川をはじめ県内各地の河

川が氾濫した事により、県内では30名が亡くなつており全国でも最多になりました。また、郡山市内や本宮市、二本松市でも大規模な冠水が発生し鉄道やバスにも大きな影響を及ぼしました。被害にあわれた組合員、家族の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

県支部は、当面する20春闘を「反失業・反貧困」の統一行動として取り組むとともに、職場から「安全・安定」輸送確立にかかわる諸問題の改善、安心して働き続けられる職場づくりに向けた闘いなど、すべての闘いを組織の強化・拡大へと集約し奮闘していく決意を申し上げて新春のご挨拶をいたします。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年もよろしくお願ひ致します。

**仙台総合車両所支部
阿部執行委員長**



あけましておめでとうございませう。昨年の第25回参議院選挙は、憲法改正に執念を燃やす安倍首相が、「自衛隊の存在を憲法に明示」を公言する中で行われました。選挙結果は、宮城県で野党統一候補が勝利するなど、暴走政治を重ねる安倍政権に対して歯止めとなる民意が示され、改憲発議可能な3分の2以上の議席を獲得を阻止することができ

ました。また、統一自治体選挙では、支部推薦候補が全員当選することが出来ました。組合員の奮闘に感謝申し上げます。

19春闘では、「一人一要求」をもとに取り組まれていた現場長要請行動において、あくまでも「職場の声として聞く」としながらも、現場長が対応するという変化を作り出してきました。20春闘においても、会社施設を使用するの分会集会を開催し、要請交渉結果の報告と全組合員参加の意見が職場を作り出していくことに確信を持ち、これからも継続していく意思統一をしていきます。

さて、仙台所では毎年矢張り早の合理化による多くの問題を抱える中で、更なる部外委託の拡大がされてきました。各職場からしっかり点検・摘発する体制を整えることが必要です。職場で起きている小さな問題をみんなで共有し、疑問があれば管理者に確認する。それでも解決しなければ、団体交渉へと進む取り組みが求められています。

また、相次ぐ業務の外注化と共に車両検査周期の延長などが合わりJR本体の職場が縮小しています。私たち国労が抱く、若い社員やG会社への技術・技能の継承に対する不安は解消されず、新幹線の安全・安定輸送を守る体制が確立されるかが大きな問題となっております。

組合員の比率が逆転する状況にあります。組織の強化・拡大が喫緊の課題です。多系統の職場から見れば、本現役または本現役や出向エルダーなど多くの国労組合員が同じ職場内の各職場で働いています。仲間が間近にいる優位性を組合員全体で再確認し、最大限活用するため分会の中で何が出来るのか、各支部の成果に学びながらこの一年奮闘してまいります。

迎える新年が皆さまにとってより良い一年となりますようお祈りし、新年にあたってのご挨拶といたします。

**山形県支部
原田執行委員長**



あけましておめでとうございませう。昨年は、季節外はづれの「桜を見る会」では国会内外で大きな問題となりましたが、安倍首相得意の「無いものは無い」で逃げ回りました。12月9日に開会した第200回臨時国会は、「桜を見る会」疑惑が急浮上、終盤にかけて国会は揺れ続けました。その中には、招待者名簿の廃棄問題に絡んで怪しげな人たちが紛れ込んでいたのではないかとという疑惑や、有権者への供応が疑われた前夜祭の問題が含まれており、安倍政権側の答弁が場当たりの、信じ難い

説明が続ぎ、不透明感が漂う疑惑まみれ国会でした。さて、国労の最大の運動課題は組織の強化・拡大です。職場は、相次ぐ合理化で要員不足が発生し多くの不満があります。しかし、なかなか声を出せない多くの仲間がいます。こうした声を私たちが職場で取り上げ、改善に向けた運動を作り、共に声を出す仲間を作っていくかなければなりません。

こうして運動の積み重ねが国労運動の継承と組織の強化・拡大へと繋がっていきます。国労運動に自信と確信を持ち、全組合員がもう一人の仲間を勝ち取る運動に立ち上がりましょう。結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

**郡山工場支部
橋本執行委員長**



あけましておめでとうございませう。安倍総理は昨年の桜を見る会で、自分勝手に招待客を決め、尚且つ反社会勢力の人までも招待していた事を国会で追及されました。吉本興業の芸人があれだけ社会的に叩かれたのに対して何の責任も取らない安倍総理は退陣を求めています。野党議員にも頑張ってもらってほしいです。野党議員にも頑張ってもらってほしいです。野党議員にも頑張ってもらってほしいです。野党議員にも頑張ってもらってほしいです。

現役の半分になり、仕事が二倍に成るのは許せないといい思いについて、自分自身エルダー社員になって本当に実感しました。関連会社の労働条件は厳しく、65才まで身体が持つのが一番の心配事になっていきます。関連会社の労働条件改善と65才定年を求めていきたいと思っています。

最後に貨物の格差は正にアツプと夏、冬の一時金の差が余りにも有り過ぎます。貨物の組合員の気持ちを考えて格差を正に向けて一杯取り組んで行きたいと思ひます。今年も宜しくお願い申し上げます。

**東北自動車支部
兜森執行委員長**



あけましておめでとうございませう。最近、乗務員乗客、歩行者を巻き込んだ重大事故が後を絶ちません。犠牲者の冥福を祈るとともに、これ以上の犠牲者を出さない為に対策を立てなければいけません。その根底にある原因として、バスやタクシー運転手の高齢化、基本給だけでは生活できず時間外労働、休日労働が生活給の一部になっている現実、長時間拘束、出先での宿泊など労働強化の実態があります。改善基準告示では、一日最長16時間、一週間65時間、

4週で260時間まで拘束出来る（一部36協定を締結すれば286時間まで）ことや、過労死ラインぎりぎりの長時間拘束、出先箇所での宿泊など在宅休養時間として改善されていない現状が非常に少ない実態が以前です。過去は花形職種だったバス運転士が現在慢性的人手不足の状況が続いています。

さて、最近のJR東日本、関連会社では労働組合不要ともいえる施策が続いています。このことは、18春闘を巡ってJR東日本と東労組の対立が決定的となったことと端を発しています。組合未加入者が7割超という異常な状況になっています。会社と組合は、車でいうアクセルとブレーキであると考へます。

ブレーキの無い自動車はどの様になるのか考へる必要があると思ひます。組合を辞め組合控除が無くなり手取りが増えますが、よく考へる必要があります。晴れている時、傘は必要ありませんが、雨が降ってからは傘を探してもあるとは限りません。晴れている時に準備しておかなければいけません。労働組合も同じではないでしょうか。昨年は、エルダー社員として新しい4名の仲間を迎えることが出来ました。今年も組織拡大を合言葉に楽しく頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。結びに、昭和の時代は右肩上がりの成長する時代、平成の時代は貧困と格差が広がる一部の富裕層と大多数の貧困層が同居する時代でしたが、令和の時代はすべての人々が安心して生活出来る様に願っております。
